

1) 特論講義、総合薬学セミナー、薬学研究演習などにより、研究倫理観、プレゼンテーション能力、討論能力、実践的英語力などを向上させ、各自の課題を進めながら博士学位論文作成により薬学研究者としての自立を目指す。

2) 特論科目については、学部科目との連携を図ることにより、6年制薬学部を基盤とする博士課程にふさわしい様々な薬学領域における高度な学識を効果的に養うことができるよう、オムニバス形式による学術分野横断的な科目を設定した。また、他分野の基礎的及び応用的知識の修得が必要となった場合などを考慮し、基礎薬学に関する科目では、基礎的特論と応用的特論として科目を設定し、1年次から4年次まで履修可能となるように設定している。

3) 「基礎薬学コース」は、様々な薬学領域において高度の専門的な学識及び研究能力を有した国際的に活躍できる人材の育成を目指すものであり、原則として研究室内で課題研究を進め、高度な問題発見と解決能力及び研究能力を養う。

4) 「臨床薬学コース」は、臨床薬剤師及び臨床薬学研究者の育成を最重要課題と位置付けるものであり、病院薬剤部などと連携し医療現場での実践的な教育研究を行う。学生は特論講義で博士課程の学生が身につけるべき専門知識を修得しながら、病院薬剤部を拠点として診療科病棟などで薬剤師としてチーム医療を実践する。また、病院の薬剤部及び医局並びに学生が所属する研究室は、特定の症例に関する臨床薬学的な研究及び臨床と基礎の橋渡しとなるトランスレーショナル研究を共同で実施することにより、臨床薬学研究能力を養う。

5) 「がん患者のQOL向上および終末期医療を担う人材養成コース」では、特論科目のうち指定された科目を必修化（3単位）し、がんに関する基礎的知識及びがん薬物療法に関する深い知識を修得する。また、学長から指定された期間において、大学院・病院連携プログラム又は地域在宅医療プログラムのいずれか1つは原則受講して、地域包括ケアシステムにおけるライフステージに応じたテーラーメイドがん治療を多職種と連携して実践、評価でき、地域医療の基盤となるエビデンス構築を担う研究者としても活躍できる研究能力を養う。

6) 「近未来の医薬品・治療法の開発を担う人材養成コース」では、特論科目のうち指定された科目を必修化（3単位）し、がんに関する基礎的知識及びがん薬物療法に関する深い知識を修得する。また、学長から指定された期間において、地域在宅医療プログラム、大学院・病院連携プログラム又は医薬品開発技術習得プログラムのいずれか1つは原則受講して、放射性化合物の合成や取扱い、遺伝子導入の調整技術の習得又は医薬品の開発技術を習得

することにより、基礎的又は臨床的な薬学研究技術を有し、医薬品の研究開発が実践できる研究能力を養う。

7) 課題研究については、創薬科学系、分析薬科学系、生命薬科学系、病態薬科学系、医療薬科学系、統合薬科学系、薬学教育系及び附属施設に属する研究室による指導体制を整えているが、学生の希望を尊重し研究室ごとに受け入れる。また、薬科学専攻博士後期課程を担当する研究室は、研究の円滑な遂行のための指導において協力体制を構築している。

8) 研究室において、各自の研究課題に関する報告・討論、英文雑誌の論文紹介、輪読会などを行うことにより、研究能力の育成、研究マインドの養成、プレゼンテーション能力、討論能力及び英語力の強化を行う。これらセミナー、研究報告会などについては、薬学研究演習として必修化（4単位）している。

9) 総合薬学セミナー（必修2単位）は、原則として3年次の夏季休暇中に研究科全研究室合同で開催し、各自が作成した「総説」を基に発表と質疑応答を行うことにより、プレゼンテーション能力、討論能力及び論文作成能力の向上を目指す